本草綱目

下

W 52-3
F 67
3

14502

文越堂藏書印

一

かさし抄下

不畫谷氏口傳

門人　吉川彦富
山口高端　筆受

る

るる

そそろ

とゝ非情のものを

さゝぶ古言なれども和歌ハ代々ソチ古言をもつてすべく

あるまゝ山もめてとゝやそしる名ハこゝイ森

うるさするるる里ハあまるこゝ所ハ松ウテドウデモ

ハヌデハナケレドヤウニモ

るる

るゝ

ゝる

ゝる

ゝる

二

ものゝ

里

ゆまるゝ　ゆまじ　ゆまじ　ゆまじ　ゆまじ

古　あつまりたる人の中山　十六ケカ　なるゝ　ナニシニ　をとゝ　タヂナロリ　あん

は　いそがるゝ　十二十カ　ゆくしたゝ　思ひまつ　ノモヤカヤ　やも

又時ゞ　けつく　ゆくて　ゆくて　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくて　ゆくて　ゆくゝ

拾　ヒタシテモ　ゆくゝ　ゆくゝ　何カレラズ　ゆくゝ　ゆくゝ　ケツク　ゆくゝ　ゆくゝ　モノヂヤ　ゆくゝ

は　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ケツク　ゆくゝ　ゆくゝ　ウナウテ　ゆくゝ　ゆくゝ　キテ井ル　ゆくゝ　ゆくゝ　コヲヤ　ゆくゝ

ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ

三

ゆくて　里　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ　ゆくゝ

ゆくて　ゆくて　ゆくて　ゆくて　ゆくて　ゆくて　ゆくて　ゆくて　ゆくて　ゆくて　ゆくて　ゆくて

とゞめくる河のり

水

流れぬ人乃心ハナンギヤノまつ[illegible]ゆるそなる

ハトテモノ[illegible]ニ

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]何ハトモアレ[illegible]ウモ

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]何ヂヤノ[illegible]月[illegible]の[illegible]人[illegible]めるが

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

於
ゝとのはねいるそやかいるとうるうしあるをとめとめ（ミヨッテ）
羽
あきちのなけきわくふあのをはるかねゝ（テミニウタ）人乃（何ヂヤゾイノ）
るゝ　なとう　るとて　なとて　るとて　なとて　かゝ

なゝて

雲

るぜ　るぜよ　といふ

似ものゝうへなるいとゞ事ふれよりのり

古
金とりせ（シタ）能ちそ秋かをとるく（モセヌニ）よなと（ナゼ）郭あるゝ（アミモタデアロウ）ん

ね
人ゝまを男ふそけも多ゝ（ナゼニ）なとゝ（イヅ）かゝあ金れ関

るゝとう

るどゝ　よゝ同ど　か　乃字例の下へまゝてなゝば。

又

ゝるぜゝと尺ゝてもゝるゝ何るり

古
うきせゝよかとさもゝともみゝ（イテアル）るゝ（モセヌニ）ゝ（ナゼ）わゝ文れ出ゝて（ニクウ）ゝする（コカ）

於
ゝるゝあゝ別もゆゝ（イヽニ）きをゝつゝ（カギツテ）ゝ（ナゼカ）ゝ右ゝ所ゝる

なとか　思ふぞ　いつ　ふるぞ　よりも　つよく　いふ　ふる

今　まて　なるとゝ　花　ぬき　すて　ゝ　ぬき　ふる

（ナゼゾイノ）（二井テ）

みて　思ふ　ゐん　どう　いつ　今　けで　といふ

扨　あさ　りと　ふる　ぬき　ふる　ぬき　ふる　ぬき　ふる　ぬる　ぬる　ぬ

花よあてるのへ（ナニシニ）かへるん（デアロウ）命惜しがるのへ（ナニシニ）ハウモノギャノニ）あを
ちぬえぬきぬきぬ人もるる（イ）あを（ニ）るよ（ナノタメニ）山路あきぬ（タ）すん（デアロウ）
又里言よわるぎ金うして明るけぶぐしてあるぶ
ぐ
ちぬきぬ中どうもちるもの何ごと
何を何と
るよ
るよ
るよ
るよ
ものるぶ
ぐ
ちぬ也
ぐ
ちぬ
ぐ
ちぬ
ぐ
ちぬ

又始つる[る]ぬ[ぬ]あり[り]の[の]ぬ[ぬ]ぐ[ぐ]と[と]何[何]

う[う]ぬ[ん]るどよめるもぬるど

拾 むすいつ[つ]きかたらつ[つ]る[る]りせ[イニ・レテ・ミタリ]と何[何]よ[よ]の[の]式[式]を[を]つ[つ]ま[ウモノゾ]し

古 あ[あ]つ[つ]ま[ミモセマニ]せ[せ]ん[ん]ま[ま]みくもら[ら]ぬ[ぬ]の[の]ら[ら]ぬ[ぬ]く[く]ら[ら]ぬ[ぬ]す[す]ま[ま]

なすあり[り]

るにりそ[そ]

るふ[ふ]

るか[か]

いづ[づ]まる[る]よ[よ]れ[れ]

る[る]ふ[ふ]と[と]ぬ[ぬ]る[る]ど

ぬ[ぬ]る[る]ふ[ふ]ま[ま]て[て]

う[う]

ハ例の下ま

ぬ[ぬ]る[る]ふ[ふ]ま[ま]ま[ま]あ[あ]

る[る]ふ[ふ]ま[ま]ま[ま]ハ

何[何]ま[ま]何[何]ぞ[ぞ]いの[の]と[と]里[里]ぬ[ぬ]

古 あ[あ]つ[つ]ま[ナニ・ケカ]ま[ま]ま[ま]ま[ナニ・ミニ]ま[ま]ぬ[ぬ]ま[ま]ま[ま]ま[ま]ま[タ・デアロヅ]ま[ま]

ハ[ハ]ま[ま]せ[せ]何[ハニ・ミニ・ニア]ま[ま]人[人]め[め]ぬ[ぬ]ま[ま]ま[ま]ま[ま]ま[ま]ま[ま]ま[ルデアロヅ]ま[ま]ん[ん]

拾 人[人]ま[ま]ま[ま]ま[サヘ]ま[ま]ま[ま]ま[ナニ・ミニ・ニア]ま[ま]ま[ま]ま[ま]ま[ま]ま[ま

撰
ニシニ
ゐにしかぜ人もまてこんいにしへ(ウヂイチバイ)
ゐのとて里
何のとて人をとて又
どうしらぬ
とて
とて
とて

は 今やかうるまそ（何ヤ云テムニヤ）ハ雲ゝあ（ギヤニ）ゝ（サヘ）かへ（ケラ）ハ（ウモナイモノ）に

すゑ　るんの　といふ梅下に　ぞ　とうくるゆ　あり

古 ゝ（ウヅ）ゝ　ゝ　ゝ　

何うもて　何うもて　世中ことあるも　なふ　といふて
かゝらぬをなぬべし
古　むえ玉式　ウヂ　ナシ　ふかくたゝ　サヘ　ナシ　ふつにふも　サヘ　あるを　ヂヤニ
百　花　サヘ　あらぬ　ナシ　ようふ　ま乃　をりん　ウヂ　るとも　ふく　ふなけれ　ズニ　ナヨモノ　まし
又　何の　乃一例の　ウヂ　にようる　もあり　墨　なよいふ
ゞあらうぞの　といふ通
太　ヒキ　ゝリ　ふ　ふる　何ニガカヒヲイ　ふも　ハヤ　ハヤ　あれ　いまて　かへ　すき　ぬ　ま　ま　ま
なへて
なへて　墨　ぶし　ま　ま　引　ふめて　ふどふ　なへ　ふへて
ふして　ふる　ふ　ける　ふり　乃　ふ　ふと　ふへ
古　梅　花　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ドレコレナレニ　ゾイヲハニヨリテ　ふ　ふ

あるべきかはりもうつりゆくてのよそもうつりぬ（引ノ如クテ）（ヲ）

なかれ

九

はすのうきねにかくぶをかくぶを今は

るかとかくいあるもわりゆゆしかりとは

なりとかくいあるもわりゆゆしかりとは

つるにはきこぶへうりとゆかりとは

木のまぶわるふなどもるくまぶなるやうにかぶりもるく

あるりはまるるもいにあらぶるどもあり

文るもいかくかりり

於ヒ

ヒ

ヒ

ゆるぶてくゝぶ花りみぢるぶ
ぶ
ぶ

[まぐ]ど[ま]ぐひよりあるもどうでもとくかうせぐやとよい[ま]
[ま]ぐ[ま]ぐ也文よりかゝるよりかく例のごとく行文の[ま]
[ま]ぐ[ま]ぐとよむと[ま]ぐとよむとてとるぐ似る和あつぐびらかな
いてとうべしぐ[ま]ぐ[ま]ぐ[ま]ぐ[ま]ぐ[ま]ぐ[ま]ぐ[ま]ぐ[ま]ぐ
[ま]ぐでようとも[ま]ぐ[ま]ぐ[ま]ぐ[ま]ぐ[ま]ぐ[ま]ぐ[ま]ぐ[ま]ぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いやほのめかしてきこゆ儒書乃古訓ヨ将の
字を[illegible]とよめるこそいとあはせるあれ扨古今の度も
如くく訓乃中又八未ゴまたなりそれもさ面ゴかるやう
ゴまこそいすゝのをゴめくこおろくおるらるやうゴ
れど今の里言よいゴいんとゆゴ古のていくゴ
古
ゴまるゴるくゴまけハあちきまきまぬゴ音ゴるゴ
収
カ
ゴまてかのゴ（テレモタ）さゴるゴるゴれをゴうゴむんゴる
ゴれゴふ[illegible]ゴうゴ訓ゴれゴ里ヨ
者也
[illegible]ゴ
ゴまゴ
ゴまゴ訓ゴ
みえぶゴ又
ゴまゴれる（テレモハウドロ云ヲガ者ニモ）ゴゴゴ

ハ上ニ云フ時ニ

つゝ紙にうつしたるものゝさまをのむしの
らわ[illegible]ぐ里言よ　又　とゝ合也
けり世中にて元明寺に伊勢物語あるとも
ちつぐとかゝり・枕文よ分り・ぶ倒ぐを異意て
ゝるよりつまを　乃合とこゆるなり

へて

ゝぶてとゝぶを異意より里よ　うゝて

あゝとゝて

ゝかゝるやゝゝえを物語のゝとゝへて久井テ　ゝまゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

奥義抄

ゝゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

デアルコトヲ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝゝゝ

なぐもりやまでも但見ハ今ぞ〻とゝぐすゝあらば
ゐすゝにいちるゝ母

ひらがなよみ　里ゝ　いちむきゝ　いちばゝよ　とゝぐゝ　ゐのほをかゝり

みぞ〻ゝこゝ方ゝゝとゝるゝ也

收一ムキニ　ゐゝすゝ　ひゝとゝ　ゐゝる　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ

千イチヅニ　ひゝゐゝすゝ　ゐゝゐゝ　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ

又後拾遺　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ

ゐゝすゝとかけるゝ也さる袖のゐゝゐゝゐゝゐゝあゝ

ひらがなよみ　ゐゝすゝ　とゝる　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ　ゐゝ

てゝゝかゝりとゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝ

かゝゝゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝ

かるもひをしむべきものをいつ
拾 うゑもかるもきのをひとつにかなをわ人乃ものんデ
伊 みよりもかるもきのをひとつにかなをわ人乃ものんデ
ヒキ、リニ ナヤニ
カタ一サウニ
何カシラズ
みよりもむらかりもひとつにかるもかうかうとなくるバイ
まろ

二例

又 とらひるもとり 二例

又

かうくはい

乃ものとり

伊 ホド
桑ニ
千
ものもとあしとものもとあしとものもとあしと

古今ようたてと又まうをみまくれまうれば
一例乃又るり下ハ二例乃又るりこれもかく
これ有のまうきうるやうをるれば二例只ひと
つよかへる也
まうこ　まうき

まうこ　里同いまぐとるるり乃也上古ハまぐとよまぐ中代ま
祖のうらあるもて　まぐいまぐりちを世
よ八文いまぐとまぬやうるるいもり今れわる道
るりまきてるのづこ　まぐいまぐよりかうとまきこゆ
古
文ようまくまうすいるるあるをこれるとこる月やとうるん（デアラウヴ）
投
ちひつまくこらひそめあ神こひをかるり乃りまくせてうる（テミタイ）
（テンヒナリニ）
まうこ　里　まうこ　又　まぐ　又　まぐ　ひ

いとをかしくべきぶくろ
ぬぶくろ
ぬぶくろ
ぬ

まり

里

何のうすにまあ何のうすにまあ又一だんげよ

るどいて　ゆみをたくさんてゆみさきるよりてゆみ

古　秋あるる秋のもあくるいのにて出のねまけ　何カナニ置テコチヤ　ますそうるのき

後　うりくさてもせんかへるきのかりうきまいまわ　何カナニ置テ　角とまなけ

又　ずりまづとあるをばさ卯をこんて里ばべ

古　ちつ乃ゆをを見てそかりめつきんよりるつえんとそ

まのして　コチヤ　テモタ　サキニ　イト思テ

ずりて　二例あり一例は里回又　うれんあるふとまらん

あれわる秋乃夜　何ヨリモ　ソレナヘアルニ　テ　ハウ　あるふ書

二例は里ばいまりて　るどいて

古　秋ゆきこれ　何ヨリモ　ヤバイニシテ　ゆをとろうもん

又拾遺長谷の寺にて秋村をまぢかれてる
校あらぐとのめるいとんやとて分ける所の間で
公乃物ぐるなり

こゝろ　みるこゝろ

みるる　里すまうとて　人よ　物ぐるる　皆人といふ物をこの知る

扨　紛もみるるらるやゆくまのあらぬこそなるぬつるれ
スツキリ　テミラ　別ノコナニ　テミニヒソナコギヤ
るくるるこそよるかるとなるあんなる清るるるれ
ドコモ　テミニコテクレ　ヤウニ

こゝろ　あべて　とあるこゝろ

古　紫乃一ゆとゆるこゝろむさ乃笑ふるあるこゝろ
ドンナトモニ　コキヤ

むけ

ひさ里　うらうしてねうらるもどらつ父はいかなる何也

わすれ物（テシラタ）　今更かへらせテモ　のさらふをうらひきうもの（イヒカナ）　子カラ　ひろこと（ヒイ）　ハヌデハナケレド　うらもの

清ム　ちらきこと有あらの様かなて　子カラ　ひかよくまし　なんだコデ有ダカ　ひろ

むへ　むを　むへうそ

むへうそ

うべとかくぶ本義尤ど中どうよりふかるうふをかりり豆

道理でとつて

右　吹うしてしれ乃ゑ末風をうる風（ルニヨツテ）　道理デ　ひ風山見をとあらうとうん（デアレウ）

ハ　冬ふ風の（ヤウニナレバ）　ひ（道理デ）　ふとる高ひ（ウアルモノギヤ）　ふ多

ひ心ひ　ひ心ひ

理ふる　ひ心ひ　ひ心ひ　ひ心ひ

とつて

ひ心ひ　ひ心ひ　ひ心ひ

ひ心ひ　ひ心ひ　ひ心ひ

ひ心ひ　ひ心ひ　ひ心ひ

異よ

道理うそ　乃理でうそ　などいつも同し

古のものとも（道理カナ）もとゐんりきをもみわけぞとゝ殿つゝ殿やり

故ふとゝ風（サテモ）乃すゝく盛ゆるこの秋ゝ日といひ（ダウリカナ）金でいひるも（フタモノチヤ）

向ゝ人ゝ（ダウリコソ）そそ花いつゝ（テミニフタテカナ）ゐまたのこゝろく成月ゆるこの秋（テミニフタテカナ）

乃へゝ枝（ムケギヤ）ゐゝ道理（コウ）デコそ、かゝ乃ゐるゐも玉めゐ（ケウニ成タテギヤ）ゐゝ

むま

むまといつ事也むゝ行人のつゐな今といひる詞乃

かゐゝ事きこゝるゐゝわゝざとゝむゝ事ゐゝ行ゐ

馬よゝもゝ乃ゝよゝあゝり

六帖　あゝまゝちゝ（イヽカ）ゐゝ（ヲリヒナリニ）あゝゐゝらゐのちゝくゝなゝるゝゐゝ行ゝさ（イヽ）

蜻蛉日記　なゝつゝ（ルハヅチ）ゐ人ゝもゝゝる（ツミヨツテ）ゐゝたゝのゝ（イヽ）ゐゝもゝまゝゐゝかゝゝり（デ）あゝんゝとゝすゝん（スルデアロカ）

あらたまる

和名抄云專訓毛波良專一云義也されど今よ
と文字かゝるハ今里言なり**ゆつぞ**とゝ詞とハ
ふつととゝ詞なるべし叶べうん
古 フツト テシラ ソコデコリ ヤウニナレ
あ今ゝのゆゝとゝあるゝ何人のゝひきもちゝ物
伊物よりゝゝなひゞとゝもえきでとあるゝゆゝひゝゝよ
ゆゝとゝるゝゝゆるゝ源氏夕霧よりゝゝゝけゝゝゝぶと
かゝらゝゝてとゝかゝるゝゝゝふゝと承ゝぎゝゝよゝゝ也

りを

里同あてゝよゝゝ今ゝ同也 **りゝも** 里同

於 来タ

あゝもなゝかゝゝき山をゝ今ゝゝかゝゝわゝゝゝかゝゝゝゝ

形今六十君ドモ
枝
ものを命とあいなんをを風すこ
形
ざいてかくるかうちにうちまつをけるまに
ものともよ

ものに思ふ

とらまくるといふ
とらるるは
ものとも
いふ双子を
をくらくらり
古
とものにたきてとめ
枝
ものこそ
やくと

オモムキ　チヤニ　サア　トモビニ

ものをいこのものともにわの
テ見ヨウ

食くと思ふ

やくとといふ
ものとといふ
ものとこそ
ものとこゆるこ
ある人き

思ふて又せばーて

といふ事あること今も

ゆ
ゆ
ゆ

やうて

里言

うはまくまずぐに　らうもるかぐぶら

乃ぶちあまををみるきるるがくつ乃事のあみを

あるうるゆゆとへば二條と冷泉とゆくぶきこ事れあるく

二条へゆくとて冷泉ハ乃ぶるれぶそ乃事をもわきまへる抜

乃ぶをいへべし

長抜こてもいふ（イウヨリモ）

わ金（ルイ）ちくまこゆるれやうて（トリモナホザ）かまつ（ツヽニスグニサテモ）ふ秋の野とるれて（チキニヨツテ）

彩野を山やうて（ツヽニスグニ）とて（ヲイ）とも金を花ちうあて（テムニウタラ）人やまぶん（ガ　デムラウ空）

よりや

よりや

よ

果て　よりて　又　よのい　もらい　ぶ　よ　かる　ぬ　事　ぶ　ぞり

古　そ　き　乃　て　ん　う　も　る　れ　ば　よ　ま　ま　て　う　ら　す　て　る　何　也

ヨシ〜ソナラハ　よ　し　ら　ば　流　よ　ら　ら　ま　か　て　テシレハヘ　ま　ま　ま　ま　人　め　を　ま　ま　か　ま　り　そ

よ　や　金　い　ち　ち　る　ぶ　め　る　何　也　ぞ　よ　ほ　て　よ　い　ら　乃　る　ぞ　よ

古　よ　乃　河　ち　め　人　そ　ば　ら　か　め　そ　金　ら　ひ　て　置タ　雲　ら　れ　ば　イ

ヨイ〜ハイ　シレバカリ　ウアラウズレ　トウニ　テ置タ

月　ふ　ら　れ　て　き　い　も　ば　ま　中　よ　か　つ　る　よ　り　ば　ち　川　乃　よ　や　世　中

ヨイ仕テ

よ　る　も　よ　よ　よ　た　も

よ　る　も　よ　る　ま　も　ま　も　下　よ　ど　と　ら　ば　て　り　ば　代　乃　中　そ

八　千　載　よ　の　も　秋　ぶ　ら　ば　と　よ　る　ま　の　ぶ　て　り　ら　け　わ　ば

る　ま　る　金　ら　な　ま　で　ど　も　わ　と　よ　る　も　や　ま　ど　と　ら　る　ま　を　ふ　く

めくれてかるがゆゑにかくれぬ

よるはよりおくれてよるはよりくるよりはよりくるはよりくるはよりくる

かぎりてさハあらじとて
ゆ也かぎりてよハあらじ
ゆふをうれしけれ
ゆふぐれひるまゝ世
ゆ仙ぬ世くるゝ
ゆ祖みかけるゝ
れど後いひなくいる
ゆ月ゆて
世ゆ祖ものなりてれば一首の
ちゆ又世
ゆ也ものあり
ゆ也ものあやしむ
ゆ也又
ゆ也ものどもの
ゆ也ものどもの
ゆ也ものどもの

まぎらうるべられて今
よもやよもやと思ふ
て尽きぬるり
よゝうよ　よをへて
ちらてゆく　世　何んぞ事中
古子ンガ子ンゼウ
よゝかよ　何ンニデ
るらしてもかくるらん　子ンガ年中
扨
うゝもれとらて君こうよのとらて　デそつしウアラウハ
よをへて　世　なんぞもゝと
古
うためよ　ニテ見
ナンヤラ　ナン年モ
風ふ　石とて　ナンヨンモ
ものもさらぬ白もちふよをへてゆるつる　テ何カニラス　ルイギヤ
水ちあり
イクヨモ
もえふ玉のよをへてゆるゝ　池のまとゆるゝ　一ニヨ　ゾカ
扨拾き乃ふの　ひく秋も
ひすよりあり　ひすへハ世界を

世代を年をもとらられずよもすがらよをへてなどみるもかなしかりけれどなほ翁

よいひるれてえぶのようもんとらどもそれをとうまでかく

てぶでよみいぶすもつるほのほ也彼時代みようみを

あれば一例として更へ

わきて

とりわきて又ぶんぶつてるどらつて可すべて乃うつも也

数あるめめ中をそれてようえりわるるるるり

月かをいはるの光乃あきのようをわきてこゆるかたくるかりてルーチャ

大宮乃面ハわきてもそかの(ヌケド)とうるる宮木ハわ(ソレヲ)のうさ面(リウく)

トリワキテ

ギヤニブンダツテ

あるくに 里回 かるの里 ともよ

あつ(タラ)て秋の月と花とをぎゃに(オナジイナラ)くらべんにん(ジテ井ルデ名)ば今みをたい(タイ)やの

はオナジイナラバ 花のくに(ジニ)君とるひの池ぶ(ジコデヲ)みをなまつと(タヅ)もいまはうえれめ(ウズ)

花のう かるのえつ 花のまと おのはたらう

おるの里 自分乃 又 自分の とよ文 乃がすのえ れめがきあ

花乃ぶ ぶ花まくるぶ下りかとも秋のつきとる時ぶをは

てめいく 又 ふれく乃 とよ 僅ぶべく

秋の野あさるきぶの(自分ノ)乃ふ乃を人のれて

はゆきつかる花のそを(ニシテ)ぶ井テまをそあぶ(コチヤ)ぶ

おるのえつ 里 めんくふるよ とよ文 ふれも とよ

文みは乃くかとも秋なり とよ ぶべ

秋の色はよりあの（ワレモクト）うちくくてちりぬめらかなる（テニラ）（イサラ）

ちりぬる 里三例あり。一例 **かくてます** といふ **おのづから** るぞいまは

かくりて。ゆくくみづくしの上をはぶりてかく里は（オテハヘ）

投 孤カ人る道のうちの海のあくハかれいとともたなはけ

投 うち思ひ（タ）あるハ行くて菊ちる花はのれひとり（オテハヘ）（何カニシテ）あはけりけり（ウルハーチャ）

詞 風をいたみ（カ）（キツサニ）いたくくうつ波のあれ（オテハヘ）（バツカリ）のをきくられ

けしくくみづくしの事は落ちるれど上れ句ばかりで終よ

波のうへをきていたくくうつ網乃かりの事也可秋の面白ぬ

人ぞれをうづよべ見れば。かくくなり。三例里 **秋とわびぬ** よ

又 **ちりぬる** といふ

投 わがもとぬ秋乃はよもとの廉をおのまつ（ワレトワガデニ）（デカカ）

続千載 雲気ハ花ちるくもゝ(ヤウニ)なる春日よ(オノレト)れうらゝかなる春の日
は例度せうり形勢別。又まきゝ[おのれと]らるゝあり。
昔みえぬ袖也。三例異[おてまへぞうり]とらるゝ後
世のしるしるゝ

壬三
風あらぬ山田の庵よ秋田
彩千ヌ彩及禁
ぬくるまよかるいきぬちよを兎
めて(オテヘヘバカリ)なれうゝ(オテヘヘバカリ)ゝ

[ぞうり]

[偉同又]

[ぞんと]

[ひとりぞよ]

るゝといふ

千
花ちるのかけるなつ(ヒセント)ゝめぬ(何カミズ)ゝ
彩ヒトリデニ
なつゝすゝもあるり(フカナ)夏衣日もゆゝるなる面白りよ
又ゝ面ゝすよゝゝ(サヒモ)ゝ
ゆよ更ゝる例也。

[偉]

[自然ゝ]

[ゝ]

河もとゝ(ソレトハチガウテ)もるいとまの水も(自然)なかれ下にくかるゝあれ(然ハ)
彩(ニゼンハ)おもつゝ高きもるゝ所ゝ庭乃面ゝ木葉吹まくゝ谷乃ゆゝかも

大ゝ　大ゝ八

大ゝ里　全体又　ひゝかり乃ゆゝあり。肝要ゝあるを守ゝ
てゝを知ゝ絹ゝ乃ゆゝよゝ　ゝかゝゝあゝ如ゝ
もゝてゝゝ也　大ゝゝの　大ゝゝゝ　大ゝゝゝゝ　大ゝゝゝゝゝゝ　大ゝゝゝゝゝゝゝゝ

長ト通リ(ギャクレド)　ゝゝも林ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝ(ウヲルデアラウ)　ゝゝゝゝゝゝゝ(カギリテコヱヤ)
長杯　ゝゝゝゝゝゝゝゝ

せめとゝ（ひ）へ（て）ゝ（る）ゝ（ま）ゝ（ば）ゝ（ば）ゝ（例）ゝ（古）ゝ（今）ゝ（接）ゝ（樹）ゝ（の）ゝ（接）ゝ（を）ゝ（ま）ゝ（ん）ゝ（て）ゝ（ず）

古ヨクク思カヘシテミヽ大ゝ（き）ゝ（な）ゝ（る）ゝ（八）ゝ（月）ゝ（紅）ゝ（を）ゝ（も）ゝ（め）ゝ（て）ゝ（イイ）ゝ（こ）ゝ（れ）ゝ（ガ）ゝ（こ）ゝ（の）ゝ（つ）ゝ（れ）ゝ（ス）ゝ（人）ゝ（乃）ゝ（れ）ゝ（に）ゝ（と）ゝ（な）ゝ（る）ゝ（わ）ゝ（の）ゝ（ぶ）

接ヨクク思カヘシテミヽ何ギヤゾイノ（ゝ）ゝ（な）ゝ（ゝ）ゝ（ま）ゝ（ま）ゝ（に）ゝ（ま）ゝ（ち）ゝ（ま）ゝ（ち）ゝ（な）ゝ（る）ゝ（も）ゝ（の）ゝ（ま）ゝ（ち）ゝ（な）ゝ（る

北邊大人著書

あゆひ抄　六冊

てにをは抄　三冊

七体七百首　完

咸章家集　三冊

歌枕名所　六冊

詞の葉新雅　完

京寺町五條上ル町
日町　冨田市郎兵衛
　　嘉兵衛

和歌ひとり
俳諧天尓波抄　六冊
百家類聚　三冊
古事記燈　同上
百人一首燈　同上
北邊隨筆　四冊
八代集類類　未刻

完

14502

4N-5
i-085

Kra.72
3

日本之部

国立国語研究所
1001094661